

VII. 社会的活動

1. 社会的活動への取組み

(1) 地域市民を対象とした公開講座

本学は、開学以来、地域市民を対象とした公開講座を実施してきたが、ここ数年は参加者が減少、近隣での様々な無料講座の実施等の影響により、公開講座を休止してきた。しかし、2013年度より、福岡地区教育機関連絡協議会の発足に伴い、地域市民を対象とした公開講座を「学びの駅 TOKAI」という名称で再開した。本講座は、東海大学並びに福岡東海キャンパスの教育的魅力を地域と共有し、地域に根差したキャンパスを目指すことを目的として、新たに開始したものである。2013年度は5月～2月の間で全9回の講座を行った。講師は、実施目的に沿って学園内の教員を活用し、「健康」「食」「教育」「観光」「知的財産」など幅広いテーマで展開した。講座には、幅広い年齢層や職業を有する多くの地域市民の参加があり、特に、「健康」や「食」に関する関心度は高く、再度の実施を希望する多くの声が聞かれた。

2013年度は、地域市民の関心度を探る意味でも、幅広いテーマ設定で実施した。次年度に向けては、ベースとなるテーマを絞り、更なる講座内容の充実をはかっていきたい。

2013年度の実施日程、テーマ、講師は以下の通りである。

2013年度「学びの駅 TOKAI」実施一覧

実施日時	講座内容・講師
5月18日(土) 13:00-14:30 参加者約30名	「頭が良くなる食生活」 －科学的見地から考察する、脳細胞がいきいきと働く理想の食生活－ 東海大学農学部 教授 片野 學
6月15日(土) 13:00-14:30 参加者約70名	「子ども・若者を一人前に育てる大人の責任」 －体力・学力・意欲の向上は生活習慣の立て直しから－ 東海大学体育学部 教授 小澤 治夫
7月20日(土) 10:30-12:00 参加者約40名	「世界遺産を旅する」 －水上都市ベネチアとその湯－ 東海大学福岡短期大学 教授 藤本 幸男
8月24日(土) 10:30-12:00 参加者約70名	「発達障害と認知症」 －脳機能の観点からその対処法を探る－ 東海大学医療技術短期大学 学長 灰田 宗孝
10月19日(土) 13:00-14:30 参加者約40名	「子育ての楽しさ、面白さ」 －のそまない・あきらめない－ 東海大学短期大学部 准教授 石川 朝子
11月16日(土) 13:00-14:30 参加者約30名	「これから変わる学校教育」 －人を育てることを考える－ 東海大学短期大学部 教授 山本 康治
12月21日(土) 13:00-14:30 参加者約40名	「健康づくりは筋肉づくりから！」 東海大学福岡短期大学 講師 岡本 武志
1月25日(土) 13:00-14:30 参加者約30名	「知的財産がなぜ日本を再生するのか？」 －イノベーション、デザイン、ブランド、コンテンツの権利保護－ 東海大学大学院実務法学研究科 教授 角田 政芳
2月22日(土) 10:00-11:30 参加者約60名	「認知症とはどんな病気」 東海大学医療技術短期大学 学長 灰田 宗孝

(2) 観光文化研究所

1) 運営方針

本研究所は、1995年6月、内閣総理大臣の諮問機関である「観光政策審議会」の答申に基づき、かつ地元九州における福岡県経済同友会などの要請に対応する形で1996年4月に設立された。

観光産業が国家の基幹産業として認識されるようになった昨今、観光への取り組み方も、環境への配慮など従来とは異なる視点が求められている。本研究所では、21世紀における観光産業のあり方について、その課題を明らかにし、実践的な活動を通じて、観光の健全な発展を図ることを目的としている。

福岡を中心とする北部九州は、古くから異文化交流の盛んな所であったが、近年、発展著しい東アジア地域と我が国との接点として国際化が進んできた。また観光は地元九州・沖縄でも地域経済を支える重要な産業であり、それだけに地域経済の活性化や、生活環境の保全などさまざまな課題を抱えていることも事実である。2011年3月には九州新幹線が全線開通し、福岡の地はますます九州及び東アジアに向けた観光の発信地としてその役割が大きくなることが今後予想されることである。

以上の経緯と背景から、九州という立地を活かし、また広く国際社会を見渡しながらか、国内外との連携を図りつつ、新しい時代における観光のあり方を研究の目的とした観光文化研究所が本学に開設された次第である。

2) 活動の基本方針と特色

観光文化を学際的に捉えるため、比較文化や国際地域文化圏研究等を含むフィールドワーク、高度情報社会の基幹システムに成長したインターネット等のICT技術の集積、地域や観光産業と連携した高度な社会性を基礎に、現代社会で要請されている「観光文化研究の基礎づくり」をすることが本研究所の第一の目的である。また現代社会において、観光の果たしている役割はきわめて重要であり、本研究所では従来、さまざまな分野で個別に研究されていた観光を、それらの成果を踏まえながら、統合的な視野から学術的に研究することを目的としている。

具体的には、国際化・グローバル化時代に観光の果たしている社会的、経済的な役割を明らかにし、観光産業の基本理念として注目されているホスピタリティという視点からのアプローチを図ることを研究テーマとするとともに、21世紀の課題とされている「環境保全」を観光という分野から推進するエコツーリズムの研究及び様々な形態のツーリズムの研究、また、地域の活性化という視点からの地元地域における観光の取り組みに力を入れているのが、本研究所の特色である。

3) 観光文化教育に関する研究

観光文化の教育に関する研究として、以下の活動を実施している。

- カリキュラムの研究
- インターネット等マルチメディアを活用した多角的、多元的教育の研究
- エコツーリズム、地域ツーリズム等に関する研究及び研究会の開催
- 教育評価の測定に関する研究
- 学内外の関連教育機関との提携、交流、人材の発掘や育成

4) 観光文化における関連諸科学との総合研究

観光文化そのものに関する理論研究、及び観光文化と関連する諸科学との学際的な研究として、以下に示す活動を実施している。

- 観光文化の普遍的命題の研究
- 比較文化や海外文化圏地域研究等との共同による観光文化の深化と向上についての研究
- 観光文化の経済・社会への波及効果の研究
- 観光文化の質的・量的環境動向（予測）に関する研究
- 観光文化に関する公開講座や研究会等の開催と講師の派遣
- その他、研究所にふさわしい諸活動

*備考：本研究所は、上記の諸研究の他にも学内外に広く研究テーマを募集していく方針である。特に若手研究者の発掘と育成のための産官学共同による学術論文の募集と、共同研究等の充実を図る。

5) 活動概要

a. 観光文化研究所所報第 17 号の刊行

2014 年 2 月 28 日付けで本研究所の研究雑誌である所報 17 号を発行した。第 17 号は、「世界遺産と観光の諸相」についての特集を組み、本研究所員と外部の研究者による研究論文・レポート・エッセイの計 7 編の記事を掲載した。発行部数は 400 部、装丁は A4 判、総頁数 48 ページとなった（掲載原稿は下記の通り）。なお、本号より、ISSN (International Standard Serial Number, 国際標準逐次刊行物番号) への登録（登録番号 ISSN 2187-8676）を行った。

- ・世界遺産を旅する（1）－水上都市ベネチアのからくり 藤本 幸男
- ・タイ王国の世界文化遺産－スコータイとアユタヤ 亀田 俊隆
- ・宗像・沖ノ島と関連遺産群 神山 高行
- ・Improvement of Transportation System in Remote Islands 柏木 翔
－The case of Ogasawara Islands
- ・着地型観光の課題と日本型 DMC の可能性 宮内 順
- ・宗像の歴史を振り返る－唐津街道・長崎街道、赤間に着目して 北濱 幹士
- ・Visiting Oahu, Hawaii Jean L. Ware

b. 講師の派遣

宗像市の主催する地域公開講座「ルックルック講座」及び「むなかた協働大学」などに講師の派遣を行っている。

c. 外部機関との協力、共同研究

本研究所員は、九州経済連合会（観光部会委員）、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議（委員）、宗像市総合計画審議会（審議委員）、宗像市郷土文化学習交流館協議会（委員）などの各委員を委嘱され、地域観光・地域経済への協力、助言、共同研究等を行っている。

6) 所員構成

本研究所の所員構成は以下の通りである。

所長	神山 高行	国際文化学科教授
研究所員	林 大仁	国際文化学科教授
研究所員	藤本 幸男	国際文化学科教授
研究所員	北濱 幹士	国際文化学科講師
研究所員	柏木 翔	国際文化学科講師
研究所員	福田 伸也	学生支援室

2. 国際交流・協力への取組み

(1) 海外研修

1) 韓国短期留学 A

＜プログラム概要＞

対 象：指定関連科目である「韓国語 I」または「韓国語コミュニケーション I」を履修している国際文化学科及び情報処理学科の 1・2 年生

授業科目：「韓国短期留学 A」（両学科共通科目 2 単位）

参加者数：学生 18 名、引率教職員 1 名

内 容：韓国語のコミュニケーション力の向上を目的とし、語学の授業が中心となっているが、同時に、韓国で実際の生活体験をすることにより、言葉をその文化とともに総合的に学ぶために必要な韓国文化研究と、将来アジアの観光分野で活躍することを希望する学生向けの観光研修プログラムとしても体験できるように構成されている。

期 間：2013年8月2日（金）～16日（火）の15日間
場 所：東義科学大学（韓国釜山市）
参加費用：70,000円（内訳：福岡～釜山往復旅客運賃、港使用料、釜山港～東義科学大学送迎バス代、実習費、テキスト代、宿泊費、旅行傷害保険料、慶州・ソウルツアー代、等）
※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

2) ハワイ短期留学

＜プログラム概要＞

対 象：指定関連科目である「英語 I」または「英語コミュニケーション I」を履修している国際文化学科及び情報処理学科の1・2年生

授業科目：「ハワイ短期留学」（両学科共通科目2単位）

参加者数：学生12名、引率教職員1名

内 容：ハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）の現地スタッフによる英語の語学研修を中心とした14日間の短期留学プログラム。HTIC内での英語学習や屋外での様々なフィールドワークへの参加を通じて、コミュニケーション能力を重視した実用的な英語と異文化理解について学ぶ。

期 間：2013年9月5日（木）～18日（水）の12泊14日間

場 所：ハワイ東海大学インターナショナルカレッジ（米国ハワイ）

参加費用：220,000円（内訳：航空運賃、燃油サーチャージ、空港使用料・空港税、HTICでの宿泊費・食費、研修費、教材費、施設入場料、現地バス代、等）

※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

3) 韓国短期留学B

＜プログラム概要＞

対 象：指定関連科目である「韓国語 II」または「韓国語コミュニケーション II」を履修している国際文化学科及び情報処理学科の1・2年生

授業科目：「韓国短期留学B」（両学科共通科目2単位）

参加者数：学生15名、引率教職員1名

内 容：韓国語のコミュニケーション力の向上を目的とし、語学の授業を中心に行われる。しかし、同時に、韓国での実際の生活体験をすることにより、言葉をその文化とともに総合的に学ぶために必要な韓国文化研究と、将来アジアの観光分野で活躍することを希望する学生向けの観光研修プログラムとしても体験できるように構成されている。

期 間：2014年2月5日（水）～19日（水）の15日間

場 所：白石大学（韓国天安市）

参加費用：70,000円（内訳：福岡～ソウル往復航空運賃、燃油サーチャージ、空港使用料・空港税、テキスト代、宿泊費、旅行傷害保険料、食事代、等）

※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

4) 中国短期留学

＜プログラム概要＞

対 象：指定関連科目である「中国語 I」「中国語 II」「中国語コミュニケーション I」「中国語コミュニケーション II」のいずれかを履修している国際文化学科及び情報処理学科の1・2年生

授業科目：「中国短期留学」（両学科共通科目2単位）

参加者数：学生8名、引率教職員1名

目 的：中国語のコミュニケーション能力の向上を目的に、北京第二外国語学院が実施する語学プログラムに加え、中国で実際の生活体験をすることにより、中国の文化を総合的

に学ぶために必要な実地研修を織り込んだプログラムとしている。

期 間：2014年3月3日（月）～16日（日）の14日間

場 所：北京第二外国語学院（中国北京市）

参加費用：90,000円（内訳：福岡～北京往復旅客運賃、燃油サーチャージ、空港使用料・空港税、
空港～大学間の送迎バス代、旅行傷害保険料、宿泊費用、現地交通費、等）

※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留
学生奨学金の補助を得て実施している。

5) 海外研修航海

<第45回海外研修航海>

参加者数：学生96名、団役員14名。

目 的：学園の大学・短大に在籍する学生より広く公募・選考し、本学所有の海洋調査研修船
「望星丸」（1,777トン）を使用して諸外国を訪問し、海外の諸文化、諸事情に触れ、
国際的視野に立った世界観・人生観の確立をめざすと共に、船内という限られた生活
環境の中で、教員、仲間との共同生活を通じ協調性を養い、より豊かな人間形成をは
かることを目的とする。

研修期間：2014年2月15日（土）～3月27日（木）（41日間）

研修都市等：台湾→ベトナム→タイ→シンガポール

参加費用：398,000円

※このプログラムには、文部科学省による日本学生支援機構・留学生交流支援制度（SV）奨学
金（1人あたり16万円）が研修学生全員に給付された。

(2) 留学

1) 交換留学

本学との交換留学生の派遣に関する覚書等に基づき、下記のとおり交換留学を行った。

白石大学（韓国天安市）

参加者：国際文化学科1年4名（栗本ちあき、阪口真衣、堀江しおり、金谷貴子）

期 間：2014年3月4日～6月20日。

東義科学大学（韓国釜山市）

参加者：国際文化学科1年2名（荒木夏名美、前崎有砂）

期 間：2014年3月3日～6月20日

水原大学（韓国京畿道華城市）

参加者：国際文化学科1年1名（阿南夕奈）

期 間：2014年3月4日～6月16日

培材大学校【韓国大田広域市】

参加者：国際文化学科1年1名（向茉利奈）

期 間：2014年3月7日～6月18日

2) 派遣留学

2013年度東海大学海外派遣留学制度により、本学から留学した学生はいない。